

別紙

1.背景

東京証券取引所の適時開示システムや、国税庁の電子申告の添付財務データ方式に採用された事に見られるように、財務情報のシステムでは標準化された XML ベースの言語である XBRL を活用する動きが進んでいます。しかしながら、XBRL の民間における普及状態は実証実験段階における活動が主流であり、商用システムでの実績はまだ非常に少ない状況でした。

今回 TKC は TKC 会員事務所(全国 9000 名の税理士・公認会計士)向けの新規サービス提供に際して、先進技術の採用と開発生産性向上、XML/Web サービスとの親和性を含めたユーザサービス向上の期待から XBRL とマイクロソフトの.NET フレームワークを採用。XBRL 分野で先進的な活動を実施する富士通の支援を受け、商用分野では世界初の取り組みとして.NET フレームワーク上で XBRL を活用したシステム開発を行いました。

2.対象システム詳細

(1)TKC 電子申告システム

「TKC 電子申告システム(e-TAX1000)」は、国税電子申告・納税システム(e-TAX)ソフト仕様に完全準拠し、国税庁が開発・提供した「送受信モジュール」と「電子署名モジュール」を組み込み、TKC 法人決算申告システムの業務プロセスと連携し、電子署名・データ送信、受信通知の確認を効率的に行なうことができます。

国税の電子申告では、「財務諸表(B/S・P/L)」と「利益処分計算書」について、XBRL 形式のデータで送信することになります。株式会社 TKC は、会員事務所で作成された財務諸表の XBRL データ(国税 e-TAX ソフト仕様準拠)への変換システムを構築し、無償でご利用いただけるようにしました。『TKC 電子申告システム』は「the Microsoft Conference + expo 2004」への出展を行います。

(3) TKC 計算書類公開データベース

これまで株式会社では計算書類の公告を『官報』または日刊新聞紙上で行わなければなりませんでした。中小企業においては、貸借対照表またはその要旨の公告を履行するところが限られており、中小企業の財務内容の開示方法としては不十分との指摘がなされてきました。

そこで、会社関係書類の電子化を内容とする「商法等の一部を改正する法律」が、平成 13 年 11 月 21 日に成立し、平成 14 年 4 月 1 日から施行されました。

これを受け TKC は TKC 全国会と共に、TKC 会員事務所の関与先企業向け計算書類公開サイト「TKC 計算書類公開データベース」を開設し、XBRL を利用した計算書類のインターネット公開サービスの運用を開始しました。これによって、TKC 会員事務所の関与先企業は、従来からの『官報』や日刊新聞紙上での決算公告に代えて、電磁的方法(*インターネット)により計算書類を無償で公開することができます。

以上